

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表 （令和5年度）

1. 認定の日付

令和4年8月31日

2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社ゼンショーホールディングス

株式会社すき家

株式会社はま寿司

3. 認定事業適応計画の実施期間

令和4年9月から令和7年3月

4. 認定事業適応計画の実施状況

（1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

第4次産業革命とも呼ばれる技術革新が進む環境下において、ゼンショーグループでは前年に引き続き基幹業態である「すき家」および「はま寿司」のDXを推進し、その成果としてお客様と従業員双方に新たな価値を創造提供することを事業適応計画の目標としています。

この計画に従い、令和5年度においては株式会社すき家では、オーダー／会計システム（事業適応計画上の名称は“キャッシュレスセルフレジ”）、クラウドサイネージに対して投資を行いました。

はま寿司では、従来には無いタイプのオーダー端末、「レール型サイネージ」システム及び従業員個人の手指衛生状態を管理する「衛生管理システム」を昨年度に引き続き展開を行い、これらに対して投資を行いました。

また、株式会社ゼンショーホールディングスでは、レール型サイネージのソフトウェア開発は昨年度に開発が完了し、はま寿司での店舗導入に至っています。

（2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和5年度のROA実績として、すき家は36.4%（計画に対して+12.9%）となっています。キャッシュレスセルフレジに加え、店舗の標準設備として展開が完了しているセルフオーダーシステム（事業適応計画の認定時点で開発済みのため事業適応計画には未記載）による店舗の注文／会計オペレーション生産性向上効果が現れています。

はま寿司は、令和5年度ROA実績16.0%（計画に対して+5.8%）となっています。従来のセルフオーダーシステムに加え、「レール型サイネージ」システムの導入により客数増及び客

単価増を達成しています。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

令和5年度の財務内容の健全性の向上指標については、すき家は有利子負債／CFが0.0倍(小数点第二位切り捨て)、経常収支比率が115.8%の実績となりました。

はま寿司につきましては、有利子負債／CFが1.3倍(小数点第二位切り捨て)、経常収支比率が108.8%の実績となりました。

ゼンショーホールディングスは有利子負債／CFが2.7倍(小数点第二位切り捨て)、経常収支比率が110.3%となりました。

(4) 実施した事業適応計画の内容

令和5年度は、自己資金により、事業適応計画の認定申請書別表2-2に記した資産の一部を取得し、同計画に沿って事業供用しました。